

2022 年度  
事業計画書

2022 年 4 月 1 日から  
2023 年 3 月 31 日まで



公益財団法人 日本科学技術振興財団



## 目 次

### 総合活動

|         |          |   |
|---------|----------|---|
| I. 役員会等 | ・・・・・・・・ | 1 |
|---------|----------|---|

### 事業活動

|                               |          |    |
|-------------------------------|----------|----|
| I. 科学技術振興事業                   | ・・・・・・・・ | 3  |
| 1. 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営保守支援   |          | 3  |
| 2. 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催 |          | 9  |
| 3. 科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究       |          | 12 |
| II. 情報システムの設計開発と運用サービス事業      | ・・・・・・・・ | 12 |
| III. 科学技術館施設の利用促進事業           | ・・・・・・・・ | 13 |
| IV. 補助を得て実施する事業               | ・・・・・・・・ | 13 |
| V. 助成を得て実施する事業                | ・・・・・・・・ | 14 |

## I. 役員会等

### 1. 会議の開催

- (1) 理事会の開催
- (2) 評議員会の開催
- (3) 常勤理事会の開催

### 2. 対外機関との連携活動

#### (1) 北の丸科学技術振興会

「北の丸科学技術振興会」は、企業、研究機関等との各種連携を強化し、わが国の科学技術の振興に貢献することを目的にして立ち上げた会員制度です。財団活動を企業・団体を含むステークホルダーに対し積極的にPRすることにより、既存会員の維持と新規会員の獲得を目指します。

#### (2) 国民公園を活用した地域連携活動

環境省や国民公園協会等との連携活動により北の丸地区の特徴を生かし、環境と科学技術に関するイベントの企画、協力、実施を図ります。

### 3. 組織

財団の諸事業と組織が効率的に事業を推進させるため、柔軟に組織の変更ができるよう体制を整えます。

#### (1) 各部との事業連携・人材育成

財団職員のレベルアップを図り、より効率的・効果的な事業展開を行うために、職員研修、タウンホールミーティング等を実施し、財団職員の育成強化を図ります。

### 4. 広報活動

財団全体に関わる各種広報活動を推進します。

#### (1) 財団広報活動

これまでの広報活動をさらに検討・発展させ、効率的かつ効果的な手法を計画して確立し、財団の諸活動を広く一般に伝えることで存在価値を高めます。

#### (2) 財団広報誌「JSF Today」の制作・発行

財団の諸活動に対して深くご理解いただくために、広報誌を発行します。

#### (3) SNS やメール配信等による情報発信の充実

科学技術館や所沢航空発祥記念館で行うイベントの開催・展示の紹介、財団が行う科学技術理解増進活動の参加募集など、科学技術館並びに財団活動の新着情報を Twitter などの SNS やホームページ

ージ、メール配信サービス等の適切な手法を用いて一般の方々に向けてリアルタイムに発信します。

## **5. 新型コロナウイルス等感染症対策について**

2020年度より蔓延している新型コロナウイルスの感染症への対策を評価し、感染症発生時の業務ガイドラインの見直し整備を行います。

財団職員及び来館者が安全で安心できる職場、科学技術館で有る様、作業環境の見直し改善、衛生面での対策を徹底していきます。

## **6. 建物スペース活用と新規事業開発による収益拡大施策の実施**

科学技術館建物内のスペースの利用状況を見直し、業務の効率化を図るとともに、スペースを有効活用し、収益事業の拡大を図ります。

## **7. 教育と処遇制度などの人事・教育政策の実施**

財団の活性化を実現するため階層別研修や室部を超え、財団の課題や各部の課題をテーマにディスカッションできる場を年4回実施します。

また、同様に階層別研修として外部の教育ツールも活用し階層毎のコミュニケーション能力の育成を図ります。

## **8. 耐震化・老朽化対策の検討**

科学技術館の老朽化は深刻な状況であり、耐震化・老朽化対策の検討を当年度に実施し、基本的な方針決定に向けた活動を実施します。

[事業活動]

## I. 科学技術振興事業 (1138 百万円)

### 1. 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営・保守支援

#### 1-1. 科学技術館の運営事業

現状の青少年を取り巻く環境 (Society5.0 の社会、GIGA スクール構想など) を踏まえた IT を活用した仮想空間の教育が進展する状況化で、対照的に現物や現実による観察や体験を通して、青少年の感性に直接に訴えることはますます重要となると考えます。科学技術館ならではのハンズオン型の展示および実験工作やワークショップでの直接的な観察や体験をより一層深めていくことにより、青少年の科学技術への興味関心を育みます。これらを踏まえながら、以下に取り組みます。

#### (1) 参加体験型展示、ワークショップの開発・改良、特別展・イベントを積極的な実施

##### ①新規出展誘致および既存展示のリニューアル

###### 1) 今後の展示更新の中期的方針

積極的な出展誘致活動を行い。新規出展を獲得するなかで、参加体験型展示、ワークショップの開発を進めます。既存の展示については、出展団体のご理解を得て、補助助成金などの活用も視野に入れながらリニューアルを進めます。

###### 2) 2022 年度展示更新

科学技術館の新展示として、目には見えない「音」を科学によって可視化する体験装置を整備します (一般財団法人日本宝くじ助成事業)。この展示は、物理的な音の振動を科学的な手法で変換すると、美しい規則的なパターンが描かれることを体験するものです。これによって、科学や技術への興味を喚起し、未来を創る人材の育成に寄与することを目的としています。また、この新展示によって科学技術館全体の集客力を高め、科学技術の普及啓発を図ります。

##### ②特別展の開催

###### 1) 今後の特別展実施の中期的方針

展示室テーマと関連した特別展を実施して、相乗効果により展示への理解を深められるようにすると同時に、特別展で制作した成果物の展示物、WS プログラム、コンテンツなどを展示室で活用できるように図ります。2023 年度実施の補助助成事業としての申請を予定します。

###### 2) 2022 年度特別展の実施

夏休み特別展「気象を知り災害に備える～科学でサバイバル～ (仮)」を JKA 補助事業の一環として開催します。気象、防災、建設など関連する団体・機関と連携しながら事業を実施します。

##### ③コロナで休止中のイベントの復活、既存および新規顧客のイベントの誘致

コロナ禍で休止していたイベントなどについてステイクホルダーに働きかけ、復活をはかると同時に既存および新規顧客のイベントを誘致します。春休みや夏休みなど学校休暇期間を中心に、コロナ禍でも対応できる手法の特別展やイベントを企画又は誘致して開催します。また、出展者をはじめご支

援いただいている団体や企業、さらには新たな分野の団体や企業と連携した特別展やイベントを計画し実施していきます。

#### ④科学技術館オリジナルの展示物を制作する。

展示更新が近年難しくなっていることを踏まえ、科学技術館オリジナルのハンズオン展示物を低予算で開発し、展示していきます。

#### ⑤ワークショップのクオリティ向上

「FOREST ワークス」「鉄の丸公園1丁目」「DENKI FACTORY」「実験スタジアム」「アトミックステーション ジオ・ラボ」「くすりの部屋ークスリウム」「ワクエコ・モーターランド」「ものづくりの部屋」など常設展示室で実施しているワークショッププログラムについて、社会の話題や情報ニーズに応じたコンテンツの加除を行なうとともに、来館者の体験クオリティを担保するためのチェック等を適宜実施します。

### (2) 広報活動

科学技術館の魅力を広く発信していくことにより、入館者数を増やし、より多くの青少年の科学技術への興味関心を育みます。入館者数を2019年度（コロナ前）の数字に復元するために以下の施策を実施します。

#### ①入館者動向の分析

入館者数時系列データ分析、動向分析、アンケート調査を定常化して実施します。入館者数増加の施策を実施した時に、施策の効果を分析し、施策を行う動機や優先順位の検討に役立てます。

#### ②SNSなどのインターネットツールを活用した広報活動

常設展示・特別展・館内で開催する各種イベント等について、ウェブページやメールマガジン、twitter等のSNSにより常に最新の情報を発信します。SNSへ科学技術館オリジナルの楽しい実験映像を投稿していくことにより、フォロワー数を増やし、科学技術館に対する注目度を向上させ、入館者増につなげます。

#### ③ステークホルダーと連携した広報活動の展開

科学技術館の展示や各種イベントを、多くのステークホルダーとの連携により計画実行していくにあたり、ステークホルダーが有する広報チャンネルにも展開させていただくことで、当財団・科学技術館単独で行う以上の範囲と対象者への広報活動を行います。

#### ④入館者誘致活動

- 1) 学校団体来館者のデータから履歴や利用状況を分析し、継続的な利用や新たな来館への誘致に繋がる営業活動を計画検討します。
- 2) 学校団体向けプログラムの実施など学校団体の利用クオリティの向上に繋がる展示に関する情報の提供を行います。

### (3) 新規事業への取り組み

新しい収益源としてクラウドファンディング、大型映像・シンラドームでの映像上映料などの獲得

に取り組めます。また、助成金を財源とした教育研究機関等と連携した研究を実施し、Forest およびシンラドームの活用をはかります。

## 1-2. 特別展・イベント等の開催

春休みや夏休みなど学校休暇期間を中心に、コロナ禍でも対応できる手法の特別展やイベントを企画又は誘致して開催します。また、出展者をはじめご支援いただいている団体や企業、さらには新たな分野の団体や企業と連携した特別展やイベントの中長期的な計画を行っていきます。

### (1) 特別展

#### ①夏休み特別展「気象を知り災害に備える～科学でサバイバル～（仮）」の開催

夏休み特別展「気象をしり災害に備える～科学でサバイバル～（仮）」を競輪補助事業の一環として開催します。

### (2) イベント

#### ①「夢・化学-21」なぜなに?かがく教室

主に小学生を対象とする実験や工作・観察を通じて、化学の面白さや不思議さを体験してもらう教室を主催者と連携して年間を通じて6回程度開催します。

主催：「夢・化学-21」委員会

#### ②春イベント「気象について学ぼう（仮）」

6月に春イベント「気象について学ぼう（仮）」を競輪補助事業の一環として開催します。

#### ③企業等との連携イベント

夏休み石炭実験教室（一般財団法人石炭フロンティア機構）、生物実験教室（中外製薬株式会社）など企業と連携したイベントを開催します。

## 1-3. アウトリーチ活動

科学技術館の運営を通じて蓄積された教育プログラムや実験演示の企画開発力や実施のためのノウハウを、全国の科学館・各種イベント等において展開実施します。

### (1) 出張実験実演・実演支援

ステークホルダーが関係しているイベント等に向けて、教育プログラムや実験演示、工作教室等を開発し、当館スタッフを派遣しての教育指導や実施運営等を要望に応じて行います。

### (2) 巡回展示物の貸出し

①本年度は、「ラ・ビレット展」、「マグネット展」、「スポーツを科学する」、「感覚・体感フィールド」、「科学捜査展」、「究める！マグネット展」、「科学捜査展 #SEASON2」、「マスレチック・ランド」、「光の世界」、「自然現象のメカニズム展（仮称）」の10アイテムを巡回展示物として積極的な貸し出しを行います。貸出先のニーズに対して様々な提案を行いながら、科学館、博物館はもとより、展示面積が狭い児童館や公民館、学校等でも利用できるように運用計画を作成しています。



②付加価値を高めるために科学実験ショーや、ワークショップ、工作などのソフト面での提供も含めて巡回事業を実施します。

#### 1-4. 他館の運営

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設の運営を行うことにより、科学・技術への理解増進ならびに知識の普及啓発に貢献します。

#### 所沢航空発祥記念館の運営（埼玉県委託事業）

わが国初の飛行場として1911（明治44）年に開設された「所沢飛行場」は、現在埼玉県によって所沢航空記念公園として整備され、県民・市民の憩いの場となっています。所沢航空発祥記念館は、「日本の航空発祥の地」を記念した航空系博物館として、埼玉県により1993（平成5）年に同公園内に設置されました。この館の建設にあたり当財団は、基本構想にはじまり展示設計・展示施工監理等を担い、その後開館以来28年間運営に携わってきました。現在は、公益財団法人埼玉県公園緑地協会、一般社団法人埼玉県造園業協会とともに三者で共同事業体を組織し、指定管理者として運営にあたっています。

コロナ禍にあっても安全安心を最大限担保し、感染の拡大を抑制するためのガイドラインを遵守・徹底したうえで、以下事業活動を実施してまいります。

##### (1) 展示館の運営

- ①安全を第一に、日常の入館者対応、展示解説・実演等を行なうとともに、展示物の適切な保守・管理を行うことで、館運営を滞りなく実施します。
- ②開館から28年経過した展示ハード及びソフトコンテンツに対する適切な保守と見直しを実施し、予算の適正かつ有効な配分により効果的な更新・修繕を行います。
- ③埼玉県との連携のもと、展示館内実機のレイアウト変更、ローテーション等を計画・実施するとともに、県による設備交換工事計画の実施に協働します。
- ④館の趣旨に沿った航空に係る資料の調査・収集・保存活動を行い、展示や教育普及活動への応用ならびに効果的な活用を図ります。

##### (2) 大型映像館の運営

- ①展示館と並ぶ所沢航空発祥記念館の特長である大型映像館について、安全を第一とした日常の運営活動を滞りなく実施します。
- ②上映するコンテンツとしては、航空関連のテーマだけでなく、余暇利用を目的に所沢航空記念公園に来園するファミリー層等に向けた作品も幅広く組み入れ、公園のビジターセンター的役割も果たせるよう、老若男女が親しめる施設を目指します。
- ③まだ大型映像館を利用したことのない来館者にも訴求する活動として、当財団他部門事業と連携した科学技術映像祭入選作品上映会等、シアター設備を活かした事業を適時開催します。

### (3) 特別展の開催

- ①多くの県民・市民に広く航空機や航空への興味・関心の拡大・普及を目的とした特別展を計画・開催します。
- ②航空輸送、航空機製造、整備、航空管制など、すそ野の広い航空に関する分野の企業等との共同催事の計画・実施を通して、話題の提供及び興味・関心の拡大、そしてステークホルダーとの関係強化を図ります。

### (4) 施設の運営保守と安全管理の徹底

- ①展示はもとより、館建屋・設備・機器等の日常的保守、営繕、管理を滞りなく実施するとともに、運営に関わる多方面の安全管理を徹底します。
- ②利用者にとってのバリア低減を実現できるよう、未就学児、高齢者、障害者、外国人をはじめ、全ての入館者が安心して来館し、展示を楽しむことのできる館内の環境整備に努めます。
- ③来館者の安全を最優先するために必要な対策は適時実施することをはじめ、各種サイン掲示や巡視等による事故の未然防止、防犯カメラ設置、警備員配置、機械警備等、保安と安全管理に努めます。
- ④消防訓練が正しく実践につながる様スタッフの定期的訓練・教育と計画の見直し改善を繰り返すとともに最新の情報を共有します。

### (5) 連携活動

- ①埼玉県、及び所沢市をはじめとする周辺の自治体・関係団体・関連企業等ステークホルダーとの連携活動を積極的に計画していきます。
- ②埼玉県博物館連絡協議会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本ジャイアントスクリーン協会に引き続き加盟し、他館との連携・情報交換を行うとともに、研修等に参加することで活動の質的向上とスタッフの能力・資質の向上を図ります。
- ③航空系博物館どうしの情報交換、展示物・収蔵資料の館間貸借、またそれらを基とした特別展の開催等に繋げていくため国内外の航空系博物館との積極的連携を図ります。

### (6) 柔軟で弾力的な運営への取り組み

コロナウイルス感染症拡大抑制に繋がる各対策をはじめ、不測の事態への対応力と柔軟性を持ち、施設として本来の目的を維持達成できるよう対応策に努めます。

また、各種の割引対応や年間パスポート等の発行を行ない、来館者層の拡大やサービスの向上に繋がります。春休み・ゴールデンウィーク・夏休み等には、固定休館日である月曜日も開館とするなど、来館機会の拡大と利便性向上を目的として柔軟で弾力的な取り組みを実施します。

### (7) 広報活動

- ①展示館及び大型映像館に係る入館利用案内のほか、特別展開催情報やイベント開催案内等、常に最新の情報を発信します。また、余暇利用等の目的で来園する所沢航空記念公園利用者にも当館に興味を持ってもらえるよう、共同事業体を組む埼玉県公園緑地協会とも連携協力し、効果的な園内広報を実施します。

- ②来館者はウェブページによる事前の情報収集を行う割合が高いことを踏まえ、近年利用者が増えているスマートフォンやモバイル端末への効果的なブラウズを目的に全面更新したウェブページを積極的に活用し、最新且つタイムリーな情報の発信に努めます。
- ③県内・市内からの利用者が多くを占める施設であることから、県政・市政記者クラブを通じたプレスリリースを適宜行うほか、地元の地域紙および地域のポータルサイト、コミュニティFMラジオと積極的に連携しPRを図ります。
- ④当財団の運営する科学技術館内にも広報スペースを設けるほか、埼玉県内の博物館、国内の航空系博物館、また近隣の科学館とも連携し、広報物の相互配架を実施します。

## **(8) 普及啓発活動**

### **①飛行機工作教室の実施**

工作完成後に公園内でテストフライトができる利点を活かして、青少年を中心に航空機及び航空分野への興味・関心に繋がるよう、飛行機工作教室等を計画・実施します。

### **②友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」の実施**

当財団の持つノウハウを活かして、小学3年から6年生を対象とした会員組織を運営し、「理科」「数学」「工学」「自然」など、多種多様な分野から組立てた実験・工作・電子工作・自然観察・施設見学など、家庭や学校では体験できないプログラムを教室形式として実施することにより、青少年に航空や自然科学に興味を持ってもらう機会を提供します。

### **③ワークショップコーナーの運営**

科学技術館におけるノウハウを活用して、実演、実験、工作や体験をもとに来館者とのコミュニケーションを軸として解りやすく解説するワークショップコーナーを運営する。担当するスタッフのスキルアップ勉強会等を定期的に行い、加えて新しい演示プログラムの導入、既存プログラムのブラッシュアップを行うことにより、「空を飛ぶ」ことへの好奇心を刺激し、航空を通して広く科学・技術への興味・関心を促します。

## **(9) ボランティア活動の充実**

記念館ボランティアの活動機会として、飛行機工作教室、YS-11 特別公開、常設展示解説や解説ツアー等を計画する。ボランティアスタッフの豊富な経験と有用な知識を来館者に向けて提供する機会を設けることにより航空への興味・関心に繋ぐとともに、地域との連携を深めます。

## **(10) ミュージアムショップ及びレストランの運営**

当館の附帯施設であり指定管理業務における自主事業であるミュージアムショップ及びカフェレストランを運営し、来館者・来園者に対するサービスの向上を図ります。

## **(11) その他の活動**

- ①開館以来28年を経過したことで老朽化や情報劣化等が課題となる常設展示及び館施設・設備について、日常的業務では修繕や情報更新を行い品質の維持向上を図ります。また、埼玉県との相互連携のもと館リニューアル計画に繋がる中・長期計画の策定に努めます。

- ②埼玉県による「施設の長寿命化計画」を協働して推進します。
- ③公園利用者への更なるサービス向上を図るため、指定管理共同事業体間の連携をより活性化し、イベント等の共同開催を計画実施します。
- ④これまで28年間の記念館運営を基盤として2023年度から5カ年の次期指定管理の受託に努める。その事業活動を通して、引き続き県営施設として求められる在り方に高い水準で応えとともに、記念館設立趣旨に沿った活動の質的向上を伴った発展を目指すことで当財団の目的を実現します。

## 1-5. 教育文化施設に対する企画・開発・保守支援事業

科学技術館の運営経験を基に、科学館、博物館等の教育文化施設に対して、それら施設の新規設置や更新、あるいは新たな「活動づくり」にあたってのコンセプト作りなどの支援を総合的に行います。科学技術館の運営を収益面で支える重要な事業として、収益の拡大を目指します。

### (1) プレアデス事業による保守、運営支援

サイエンスヒルズこまつ3Dスタジオ保守点検業務（小松市委託事業）

### (2) 企画開発業務

地方公共団体等が設置する科学館等の教育文化施設に関わる企画開発業務の受注を目指します。

## 2. 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催

科学技術体験イベント、科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門家を目指すレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を推進します。

また、優れた科学技術映像を選奨するコンクールと優秀作品の全国の科学館での上映を行い、映像を通じた科学技術の普及啓発を図るとともに、放射線等に関する理解増進活動等を推進し、環境やエネルギーに係る科学技術の普及啓発を図ります。

### 2-1. サイエンス友の会の活動

2021年度に4歳から大人までを対象年齢とし、家族単位も考慮した随時入会できる新しい制度を立ち上げました。特典は年間入館パスポートを主体とし、新型コロナウイルス感染症対策も考慮して、これまで友の会で行ってきた「実験教室」や「工作教室」や科学技術館の様々な活動や設備を活用したイベントを毎月2回（夏期休暇時などには追加の場合あり）実施します。

### 2-2. 科学技術体験イベントの開催

#### (1) 「青少年のための科学の祭典」の開催

##### ①青少年のための科学の祭典全国大会（独立行政法人国立青少年教育振興機構助成事業（予定））

理科実験や工作の実体験を通して、青少年の科学の不思議やものづくりの楽しさへの興味・関心を増進させることを目的として、「青少年のための科学の祭典 2022 全国大会」を開催します。本年度

は、新たな出展企業等を募りつつ、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底して開催することを目指します。

会期：2022年7月30日（土）～7月31日（日）（予定）

## ②青少年のための科学の祭典自主大会

日本全国の市町村において、各開催地の大会実行委員会と当財団とが共催する約60の大会を予定しており、全国で開催される「青少年のための科学の祭典」とのネットワークを強化します。

## (2) 少年少女創造性育成事業の実施（公益財団法人市村清新技術財団委託事業）

市村アイデア賞受賞者を対象とした表彰式及び入選作品展を開催するとともに、小中学生を対象とし、複写機を題材としてその仕組みや原理の理解と実機の分解を行うワークショップを2回開催します。

## (3) STEM/STEAM 教育プログラムの実施（ボーイング社助成事業）

小中学生を対象に、科学、技術、工学、数学の各分野を横断的に学ぶことができるSTEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)教育に基づいたサイエンスショー、ワークショップなどのSTEMプログラムを、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底し、オンラインも活用するなどして実施します。また、STEM教育にArtsの要素を加えたSTEAM教育に基づいたプログラムについても検討します。

## 2-3. 科学オリンピック国内大会・国際大会

### (1) 日本生物学オリンピックの開催、国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

#### （国立研究開発法人科学技術振興機構支援事業(予定)）

日本生物学オリンピックは、生物学に関心を持つ高校生等を対象とした全国規模のコンテストです。また、国際生物学オリンピックに派遣する日本代表選考を兼ねています。生物学への関心が高く才能ある生徒に国際的なコンテストへの挑戦の機会を提供してその才能を伸ばし、将来のわが国の科学技術を支える人材の育成を図るとともに、広く一般に生物学・生物学教育に対して興味と関心を持ってもらう活動です。

#### ①日本生物学オリンピック2022の開催

日本生物学オリンピック2022は、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底して、7月に予選をCBT(Computer Based Testing)で、9月に本選を慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパスで実施する予定です。さらに、2023年3月に代表選抜試験を科学技術館で行い、2023年にロシアで開催される第34回国際生物学オリンピックに派遣する日本代表4名を選抜します。

#### ②第33回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

2021年度に開催された日本生物学オリンピック2021で選抜された日本代表4名を、7月にアルメニアで開催予定の第33回国際生物学オリンピック(IBO2022)に派遣します。

## 2-4. 教員のための理科実験指導育成講座開催

### (1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催

#### (公益財団法人東京応化科学技術振興財団助成事業(予定))

豊富な経験と確かな理論的裏打ちや細やかな実験演示のテクニックを有する「青少年のための科学の祭典」全国大会の実行委員の先生方が講師役を務め、授業や社会教育活動でも役立つ実践的な理科実験の講習会を、主に小中学校の教員を対象として、物理・化学・生物・地学の分野毎に開催します。新型コロナウイルスの感染拡大防止を徹底し、従来よりも参加者を制限するなどして実施します。

## 2-5. 科学技術映像祭の開催と優秀作品の上映

### (1) 第63回科学技術映像祭の開催

科学技術週間の行事の一環として、4月に科学技術館サイエンスホールにおいて、内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞をはじめとする各賞の表彰式と入選作品発表会を、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底しつつ開催します。また、科学技術映像の普及啓発のため、入選作品の上映会を全国の科学館等で実施します。

### (2) 第64回科学技術映像祭の作品募集

運営委員会において第64回科学技術映像祭の開催方針を検討し、参加作品の募集を行います。

## 2-6. 放射線・エネルギー等に関する理解増進活動

小・中・高等学校等の児童生徒、教育職員を対象に、放射線やエネルギー等に関する正しい知識の普及と理解促進を図っていきます。

### (1) 放射線に関する教職員研修及び出前授業の実施 (文部科学省委託事業(予定))

学校教育における放射線に関する教職員等を対象とした研修及び児童生徒等を対象とした出前授業を実施します。

### (2) 放射線教育を支援するための情報提供事業の実施

放射線教育を行う教職員に対して放射線教育授業実践事例、放射線に関する資料等を提供するとともに、児童生徒に対して放射線に関する理解を深めるための情報提供を行います。

### (3) エネルギー・放射線教室の開催

「青少年のための科学の祭典」全国大会や地方大会、各地の科学館等においてエネルギー・放射線教室を実施します。

### (4) 放射線教材コンテストの実施

放射線について学んでいる大学生、大学院生等を対象に、児童生徒が学ぶための新しい放射線教材を募集し表彰する「放射線教材コンテスト」を実施します。

### (5) SDGs 教育プログラムの実施

「スピーカー工作による教育プログラムのモデル化推進事業」（フォスター電機株式会社協賛事業）等のSDGsに資する教育プログラムを実施します。

#### **(6) エネルギー教育活動を支援する事業の実施（資源エネルギー庁委託事業（予定））**

学校でのエネルギー教育活動を支援する事業の実施を目指します。

### **3. 科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究事業**

来館者の意識や動向を把握するために科学技術館来館者調査、展示や教育、運営に関する調査を行います。調査結果は現場で活用するとともに、可能な限り科学教育学会、ミュージアムマネジメント学会等で発表します。

## **II. 情報システムの設計開発と運用サービス事業（349百万円）**

1. カスタマーサクセス（ビジネスモデルの改善、競争力の強化、よりよい労働環境）をもたらすサービスの提供に注力いたします。

(1) 職員の自己啓発のための目標管理制度とQMSにおける研修の受講推進活動を活用し、ITとビジネスを融合できる人材の育成を行います。

(2) B2B2Bにおいて顧客と協業しての利用者数の拡大を行うため、教育関連顧客を端緒に、事業規模の拡大に伴い運用に係る業務がスケールする事業に注力いたします。前年度の実績と分析をもとにプロダクトの価値を最新化・最適化し続けるものとして、提案を含めた受注拡大活動を行います。

(3) 運用業務においてセキュリティを強化するとともに、サービスの向上と単価の向上を図ります。

(4) DX、ICTの潮流の中、顧客の情報システム部門としての業務の提案・受注活動を実施いたします。

2. リモートワークの利点を活かし活動対象エリアを拡大いたします。従来顧客先常駐でなければできなかった案件に対し、リモートワークでの活動を提案し受注に努めます。また、エリア戦略として既存顧客の各地の支店等あるいは地理的に近接していない見込み顧客を開拓し、受注提案活動を実施いたします。

3. 公益部門との連携を通じシナジー効果を図ります。まずは、財団内の公益部門のデジタルライゼーションをスモールステップで試行し実績を作ります。そこで開発・導入したシステム、ノウハウ等は将来的にパッケージとして販売することを視野に入れます。あわせて、各種交流組織への参加を通じて新規顧客を開拓いたします。

4. 顧客との協業として、新規事業・商品を開発するための提案・企画に係る活動を実施いたします。

5. 組織の体制とマネジメントプロセスの安定化をはかります。提案、受注活動においてPDCAサイクルを回すために先行指標を導入しパイプライン管理を行います。

### Ⅲ. 科学技術館施設の利用促進事業 (364百万円)

科学技術館の施設は、公共性の高いため、入館者の感染症対策を含め、安全確保、施設整備等の対策強化に努めます。また、科学技術館諸施設の有効利用を図るため、催事場・サイエンスホール等の利用促進に努めます。

#### 1. 建物および建築設備の維持管理

入館者が安全かつ快適な環境の中で見学・利用できるよう、建物の安全・衛生等の環境整備に努めます。

#### 2. 館施設の活用

催事場、サイエンスホール、会議室を、科学技術の普及・交流等の場として提供するとともに、各種団体の利用促進に努め、財政基盤の安定化を図ります。あわせて、レストラン、ミュージアムショップ、スタジオ等関連する施設の運営委託を行います。

継続的に収益を確保するためにも、施設利用顧客には公教育貢献の一助となっていることをご理解頂き、財団の価値を広く周知してゆきます。

### Ⅳ. 補助を得て実施する事業 (予定)

2022年度は、公益財団法人JKAから競輪の補助金の交付を受けて、次の事業を実施します。なお、本年4月の自転車等機械振興事業の採択および補助金の交付内定通知に伴い、事業内容および申請額(予算)に変更が生じた場合は、本年6月の理事会において再度議案として諮る予定です。

#### 1. 公益財団法人 JKA 競輪補助事業 (自転車等機械振興事業)

##### (1) 「気象・防災をテーマとしたイベント及び特別展開催による普及啓発及び生活向上への取組」

##### ①申請額

|       |          |
|-------|----------|
| 補助金   | 25,616千円 |
| 自己資金  | 6,404千円  |
| <hr/> |          |
| 事業費総額 | 32,020千円 |

##### ②事業概要

季節ごとの気象現象や防災を紹介するパネル製作、展示やワークショップ、映像を用いて気象の基本原理を学ぶとともに、これらから予測される災害や、最新の研究成果や防災技術を紹介する場を通して、気象、防災への興味関心を図り、来館者が防災意識を高めて、実践できる力を身に着ける機会を提供します。



## V. 助成を得て実施する事業（予定）

2022年度は、一般財団法人日本宝くじ協会、公益財団法人日本財団、独立行政法人国立青少年教育振興機構、公益財団法人東京応化科学技術振興財団より助成金の交付を受けて、次の事業を実施します。なお、本年4月の各助成事業の採択および助成金の交付内定通知に伴い、事業内容および申請額（予算）に変更が生じた場合は、本年6月の理事会において再度議案として諮る予定です。

### 1. 一般財団法人 日本宝くじ協会 宝くじの社会貢献広報事業

#### (1) 見えない「音」を科学によって可視化する体験装置の整備

##### ①申請額

|       |          |
|-------|----------|
| 助成金   | 38,500千円 |
| 自己資金  | 0千円      |
| <hr/> |          |
| 事業費総額 | 38,500千円 |

##### ②事業概要

科学技術館の新展示として、目には見えない「音」を科学によって可視化する体験装置を整備します。この展示は、物理的な音の振動を科学的な手法で変換すると、美しい規則的なパターンが描かれることを体験するものです。これによって、科学や技術への興味を喚起し、未来を創る人材の育成に寄与することを目的としています。また、この新展示によって科学技術館全体の集客力を高め、科学技術の普及啓発を図ります。

### 2. 公益財団法人 日本財団助成事業

#### (1) 持続可能な社会を目指すための、科学技術人材育成プラットフォームの構築

##### ①申請額

|       |          |
|-------|----------|
| 助成金   | 13,560千円 |
| 自己資金  | 3,400千円  |
| <hr/> |          |
| 事業費総額 | 16,960千円 |

##### ②事業概要

持続可能な社会を目指し、日本が再び世界トップの産業技術力確保に不可欠な科学技術系人材を輩出するため、科学技術分野を目指す若者に向け、その希望や夢を実現させるための発見と体験の場を提供する取組みとして、サイエンス・アライブ・プロジェクトを始動します。

産業界、研究機関、教育機関が持つ様々な知見や手法を持ち寄り、高等教育機関への進学前の進路選択に迷う若者を対象にして、各機関の研究所での合宿形式によるオンサイト・ラボ・プログラム、研究者や技術者との対話を交えたオンラインによるライブ・プログラム、屋外での実習を行うフィ

ールド・プログラム、持続可能性を目指す研究や技術開発につながる内容を若者向けにまとめたテキストやムービーを閲覧できるテキスト・プログラムを展開します。

### 3. 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金

#### (1) 青少年のための科学の祭典 2022 全国大会

##### ①申請額

|       |          |
|-------|----------|
| 助成金   | 6,000 千円 |
| 自己負担  | 3,550 千円 |
| <hr/> |          |
| 事業費総額 | 9,550 千円 |

##### ②事業概要

参加体験を基本コンセプトとして子どもから大人までが観て学び楽しむことができる様々な実験・実演ブースを全国から参集し、開催します。本事業では、子どもたちが科学の「楽しさ・面白さ」に触れ実体験できる場（きっかけ）を通じて、子どもたち同士が交流できる活動を展開します。

### 4. 公益財団法人 東京応化科学技術振興財団 科学教育の普及・啓発助成事業

#### (1) 教員のための理科実験スキルアップ講座～ベテラン教師による実践的理科実験極意の伝授～

##### ①申請額

|          |        |
|----------|--------|
| 助成金      | 300 千円 |
| 自己負担、参加費 | 500 千円 |
| <hr/>    |        |
| 事業費総額    | 800 千円 |

##### ②事業概要

小学校・中学校の教員を対象とした理科（物理・化学・生物・地学）に関する講座を年2回（1回当たり4分野の講座、1日2分野を2回、計8講座）開催し、授業で役立つ実践的な手法や理科実験を盛り込んだプログラムを実施します。

### 5. 公益財団法人 新技術振興渡辺記念会 科学技術調査研究助成事業

#### (1) コロナ禍の科学館でのSDGs等社会的テーマの科学技術教育の手法に関する調査研究（仮称）

##### ①申請額

|          |          |
|----------|----------|
| 助成金      | 2,970 千円 |
| 自己負担、参加費 | 30 千円    |
| <hr/>    |          |
| 事業費総額    | 3,000 千円 |

## ②事業概要

SDGs 等社会的なテーマは、科学館における科学技術教育においても重視されています。しかし、新型コロナウイルスの影響で科学館での教育手法にも制約が生じています。そこで、これらの社会状況を踏まえた手法の構築に向け、事例調査や素養調査、手法の試行試験を行います。

(注)上記の内容は申請時点のものです。